

FGI

フィンテック グローバル株式会社

<http://www.fgi.co.jp/>

FGI

FinTech Global Incorporated

The firm of innovative financing

フィンテック グローバル株式会社

本社 〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-28
虎ノ門タワーズオフィス 19F
Tel. 03-5733-2121 (代表)
Fax.03-5733-2124

第 15 期

中間 事業報告書
2008.10.1~2009.3.31

証券コード：8789

株主の皆様へ

2009年9月期上半期は、期初から掲げた3つの課題「収益力の回復、リスクアセットの処理、資金繰り」の克服に向けて着実に業務を推進いたしました。

特に上半期は、将来的なリスクとなる問題債権を徹底的に処理することを最優先し、現預金の確保と新規投融资抑制ならびに損失処理を断行いたしました。その結果、売上高20億円、四半期純損失141億円という厳しい結果となりましたが、株主の皆様には再成長に向けた道筋として諸施策を実行しましたことをご理解いただきたく存じます。

当社が立脚する金融業界及びそれに大きな影響を及ぼす不動産市況は依然として不透明な状況が続いています。そうしたなか、コア事業である投資銀行事業におきましては、既存・新規顧客企業の事業再生アドバイザー等新しいニーズに対応しつつ、新たな収益モデルの構築に全社一丸となって取り組んでいます。一方で、グループ全体では再保険保証事業を中心にこれまでの事業投資が実を結びつつあり着実に業績を伸ばしています。

“長いトンネルからの脱出”に向けた道は未だ半ばです。しかし、来期黒字化さらには再成長を企図し、当社グループは着実に歩みを進めています。株主の皆様には引き続きご支援ご協力のほど、お願い申し上げます。

2009年6月
代表取締役社長

玉井 信光

再成長への3つの課題の

FGI

The Firm of Innovative Financing

FinTechという社名は、FinanceとTechnologyからの造語です。

今後もこの名前に恥じない先進的な「金融技術」を駆使した、より革新的な金融プロダクツを組成(製造)し続け、クライアントの皆様のご信頼に応えるよう努めてまいります。

フィンテックの事業

顧客企業のニーズ

ストラクチャード
ファイナンスに特化した
投資銀行事業

アレンジャー業務
プリンシパル
ファイナンス業務

不動産関連
事業

再保険保証
事業

その他
事業

ブティック型の当社ならではの
専門性の高いオーダーメイドのスキームを構築

克服に向けて邁進します。

3つの課題克服に向けた取り組み

上半期におきましては、下記の3つの課題について、具体的な取り組みを実践いたしました。

1. 収益力の回復 2. リスクアセットの処理 3. 資金繰り

2009年9月期上半期 実績数値 (連結)

売上高	経常損失	四半期純損失(第2四半期累積)
2,047 百万円	20,484 百万円	14,169 百万円

Point 1

子会社業績が好調、実質の業容は上向きに

- コア事業である投資銀行事業の収益減少分を子会社の好調な業績が補完
- 連結対象外となった FX オンラインの業績や引当金等の影響を除くと、金融市場の混乱がピークであった前下半期との比較では、確実に当社グループの収益力は回復基調へ

実績値	2008年9月期		2009年9月期
	上半期	下半期	上半期
売上高	8,961 百万円	5,203 百万円	2,047 百万円
営業利益	2,312 百万円	△10,553 百万円	△19,625 百万円

当期から連結対象外となった FX オンラインの業績、評価損、貸倒損失、貸倒引当金等を控除

控除後	2008年9月期		2009年9月期
	上半期	下半期	上半期
売上高	5,113 百万円	2,033 百万円	→ 2,047 百万円
営業利益	1,711 百万円	△266 百万円	→ △206 百万円

Point 2

問題債権を処理して将来リスクを軽減

大型開発案件向け債権の損失処理を断行

上半期で損失処理はピークアウト

- たな卸資産への評価損計上ならびに営業貸付金、営業投資有価証券等の大幅な貸倒引当処理

売却損及び評価損：	9,949 百万円
引当金繰入及び貸倒損失：	9,165 百万円

- 繰延税金資産の取り崩しにより法人税等調整額に824百万円を計上 → 将来負担の可能性を回避

- 収益物件に対する債権の担保権を実行 → 賃料収入を確保

引当金計上済みの債権についても、引き続き回収に注力

Point 3

ユーロ円CB*の買入消却を実施

上半期

買入実行	140.7 億円	(額面金額ベース)
消却	100.1 億円	→ 償還益 70.1 億円

第3四半期(2009年4月17日)

消却	40.6 億円	→ 償還益 28.2 億円(予定)
社債残高	81 億円	(額面金額ベース)

- 残存する社債についても、当社グループの財務状況や営業展開、市場環境等を総合的に勘案し、メリットがあることを前提に買入消却を検討

*2012年満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債

発行日：2007年2月8日

任意償還日：2010年2月8日

発行総額：22,170 百万円

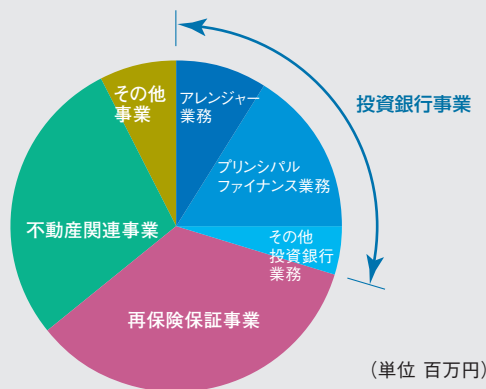
消却前残存額面総額：22,170 百万円

利率：ゼロクーポン

転換価額：158,600円

セグメント情報

2009年9月期上半期 セグメント別売上高



売上高 **2,047**

投資銀行事業 612

● アレンジャー業務	185
● プリンシパルファイナンス業務	331
● その他投資銀行業務	95

再保険保証事業 706

不動産関連事業 575

その他事業(公共財関連事業) 152

主な連結対象子会社の変更による業績への影響

▼2008年11月に、(株)ベルスの株式94%を取得し連結子会社化しました。当上半期は、売上高283百万円を不動産関連事業に計上しています。

▼2008年6月に、(株)パブリック・マネジメント・コンサルティングの株式98.5%を取得し、連結子会社といたしました。当上半期は、その他事業(公共財関連事業)売上高として、152百万円を計上しています。

▼2008年9月にエフエックス・オンライン・ジャパン(株)の株式を譲渡しました。このため、当上半期からはエフエックス事業の売上高を計上しておりません。

投資銀行事業 売上高 **612** 百万円

アレンジャー業務

- フィンテックグローバル(当社)

プリンシパルファイナンス業務

- フィンテックグローバル(当社)
- FGIプリンシパル
- FINTECH GIMV FUND, L.P.

その他投資銀行業務

- フィンテックグローバル(当社)
- フィンテックグローバル証券

再保険保証事業 売上高 **706** 百万円

保証供与

- Stellar Capital AG
- フィンテックグローバル(当社)

再保険引受

- Crane Reinsurance Limited

滞納家賃保証

- イントラスト

不動産関連事業 売上高 **575** 百万円

不動産開発・売買・賃貸・仲介業務等

- フィンテックグローバル(当社)
- ベルス

その他事業 売上高 **152** 百万円

公会計用ソフト開発販売・コンサルティング

- パブリック・マネジメント・コンサルティング

投資銀行事業

売上高 612百万円(前年同期比 81.0%減)

アレンジャー業務

売上高 185百万円(前年同期比90.4%減)

ファイナンス案件を実行するための「仕組み」の策定、投資家等プロジェクト参加者の招聘及び意見調整、法的・会計的・税務的な視点からの検証等を行い、案件を組成します。上半期は、厳しい金融環境において組成は減少しました。

プリンシパルファイナンス業務

売上高331百万円(前年同期比 73.8%減)

当社自身が資金拠出者(投資家またはレンダー)として、案件に対して投融資(匿名組合出資・メザンローンなど)を行うもので、当社グループの売上は営業貸付金による金利収入・ローン手数料及び匿名組合からの利益配当金となります。上半期においては新規の投融資を抑制したため、既存の投融資案件からの金利収入が主となりました。

その他投資銀行業務

売上高95百万円(前年同期比 180.7%増)

当業務はアドミニストレーション業務と、フィンテックグローバル証券(株)が、特定投資家層に対するサービスとして、外国籍の私募ファンド等や国内証券化案件に係る私募の取扱いによる媒介手数料の売上を計上しています。

上半期には環境変化による新しいニーズに対応した企業再生アドバイザー業務の売上を計上しています。

再保険保証事業

売上高706百万円(前年同期比 246.6%増)

主に(1)信用補完保証業務、(2)再保険業務、(3)滞納家賃保証業務の3業務を行っております。

▼(株)イントラストの売上高が前年同期比 7.5倍に

滞納家賃保証業務の(株)イントラストは、賃貸住宅管理会社との新規提携が増加し、また既存提携先からの契約数も順調に伸長し、上半期の新規の家賃保証契約数は前年同期比 4.7 倍の 13,439 件、売上高は前年同期比 7.5 倍の 445 百万円(連結調整前)を計上しました。

不動産関連事業

売上高575百万円(前年同期比65.7%減)

不動産の仲介・売買収益、連結の範囲に含む特別目的会社保有の不動産の賃料収益、マンション完成在庫の仕入・販売事業における収益、(株)ベルスの収益を計上しています。

その他事業(公共財関連事業)

売上高152百万円

地方公共団体の公会計用ソフトウェアの開発・販売、コンサルティングからシステム構築・業務運用支援を行う(株)パブリック・マネジメント・コンサルティングの収益を計上しています。

▼60以上の地方自治体から受注

2009年1月より、日本電気(株)の発売する自治体向け財務会計システムに新地方公会計制度に対応したソフトウェア機能を提供し、導入コンサルティングから業務運用までトータルサポート体制を確立、全国会計士事務所とのネットワークも活用し、地方自治体からの累積受注数は60以上(アライアンスパートナーの受注を含む)となりました。

2009年 基本施策

9月期

FGIグループの提供するソリューション

環境の変化に対応しながら、
基本施策を着実に推進し、
早期の業績回復を目指します。

営業戦略

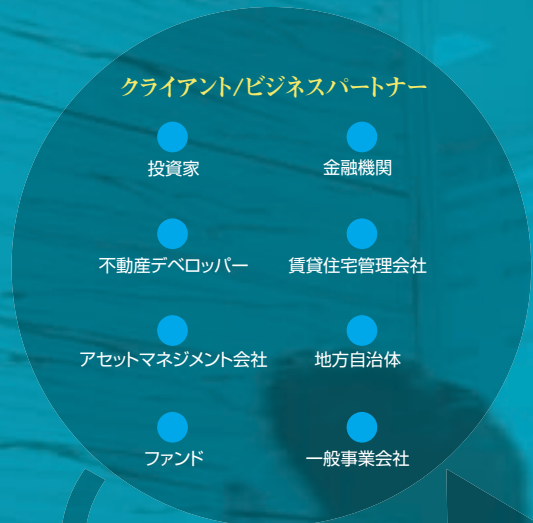
1. 収益基盤の拡充を目指し、新たな事業の開拓を進める
2. 顧客基盤・情報基盤の整備
3. 海外・国内投資家とのパイプラインの構築

グループ経営戦略

1. 子会社を含めた不採算事業のスクラップアンドビルド
2. グループシナジーを追求し、経営資源を最適配分

リスク管理・財務戦略

1. 資産圧縮を進め、バランスシートのスリム化を図り、財務リスクを減少
2. 安定的な手元流動性の維持
3. 案件の厳密な審査・債権回収の強化
4. 販管費等の費用の見直し



多岐にわたるニーズ

資金調達、資産流動化
投融資、金融保証、再保険

ニーズにあわせた
ソリューションを提供



FGIグループとしての収益力の回復に向けて3つのテーマをターゲットに営業展開を行っています。

当社グループは投資銀行事業をコア事業として成長を続けてまいりました。当社の主な顧客層が属する不動産業界において厳しい経営環境が続くなか、当社の投資銀行事業においては企業再生アドバイザーなど、新たなビジネスチャンスに対応し、収益拡大への新たな挑戦を続けています。

既存市場

- 既存クライアントへの債務整理、ファイナンスアレンジメント
- 既存案件のリストラチャリング
- 既存クライアントの再生支援

派生した新規市場

- 投資家との連携による破綻企業支援
- 新規クライアントに対するM&A・再生支援、スポンサー・ビットへの参加
- Aセットマネジメント会社の取得

アレンジメントスキルと投資家ネットワーク力の発揮

- 不動産関連企業の破綻が相次ぐなか、当社はアレンジメント力を活かし、いち早く企業再生へのニーズに対応しています。
- 再生ビジネスにおいては、スキームのアレンジメントのみならず、資金調達を提供することが重要なテーマとなります。当社は国内外の投資家、資金提供者とのネットワーク力を強みとすることから、エクイティ投資を含む多様な再生モデルに対応することが可能であり、これらの投資家と共同でスポンサー・ビットへ参加をするなど、ビジネスチャンスも確実に拡大しています。

グループ企業は、再保険保証事業において滞納家賃保証業務を行う(株)イントラストが前期の黒字化から順調に業績を拡大しています。さらに不動産関連事業や公共財関連事業などにおいて子会社とのシナジー効果を追求することで、連結ベースでの収益力強化に向けて着実に取り組みを実行しています。

次世代に向けた基盤づくり

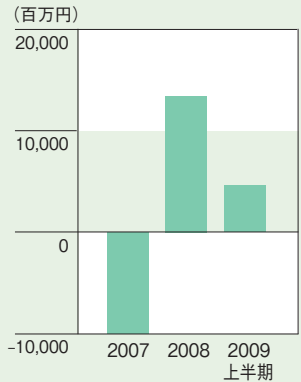
- グループ会社である(株)パブリック・マネジメント・コンサルティングを通じて公共財ファイナンス分野へ積極展開
- 海外投資家との協働ファンド組成

公共財関連事業への進出

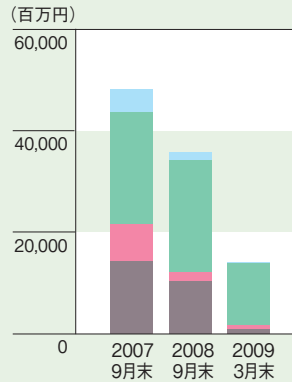
- 2008年9月期に(株)パブリック・マネジメント・コンサルティング(PMC)を子会社化しました。同社は公会計用ソフトウェアの開発・販売、コンサルティングを行っており、**60以上の地方自治体からの受注**に至っております。
- 公会計整備により地方公共団体の資産が時価評価されることで、財政健全化法を意識した資産効率向上ニーズが拡大すると予測されます。当社は、PMCとのシナジーを最大限に生かし、このニーズに対応した証券化・流動化を用いた財務ソリューションを提供していきたいと考えています。

財務リスクの低減

営業キャッシュ・フローの推移



有利子負債残高の推移



■ 短期借入金
 ■ 1年内返済予定の長期借入金
 ■ ユーロ円CB ■ 長期借入金
 (注) 連結している特別目的会社へのノンリコース・ローンは除いております。

営業キャッシュ・フローはプラスを維持、有利子負債を減少

当上半期の営業活動によるキャッシュ・フローは、営業貸付金の回収10,653百万円などの要因により、**4,371百万円のプラス**となりました。(前期においても営業キャッシュ・フローは営業貸付金の回収23,033百万円などの要因により、13,155百万円のプラスとなっております。)

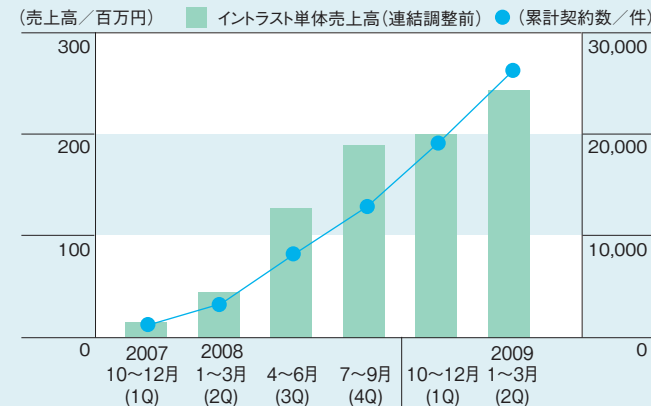
投資活動によるキャッシュ・フローは、子会社株式の売却による収入7,626百万円、有価証券の売却による収入3,234百万円などの要因により、8,213百万円のプラスとなりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済11,999百万円、新株予約権付社債の買入4,208百万円などの要因などにより、16,209百万円のマイナスとなりました。

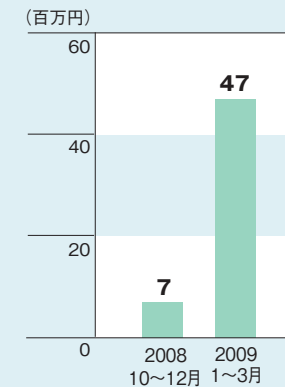
これらの結果、**有利子負債は大幅に減少**しており、財務リスクを低減しております。(四半期連結キャッシュ・フロー計算書をご参照下さい。)

グループ会社のビジネスが着実に進展しています。

(株)イントラスト 売上高、累計契約数



Crane Reinsurance Limited 再保険料収入



(注) 再保険引受による収入保険料であり、再々保険による支払保険料は控除していません。

(株)イントラストの保証契約数とCrane Re.の再保険料収入は引き続き伸長

全国の賃貸住宅管理会社との提携により、子会社(株)イントラストが滞納家賃保証業務を展開する一方、子会社Crane Re.は火災・家財保険リスクの再保険業務を行っています。Crane Re.は2008年9月よりロンドンの大手再保険会社のHardy Underwriting Bermudaからの再保険引受業務を開始し、順調に保険料収入が伸長しています。

四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表

(単位 千円)

科目	当第2四半期末 (2009年3月31日現在)	前期末 (2008年9月30日現在)
(資産の部)		
流動資産	20,105,954	78,155,349
現金及び預金	5,864,782	9,600,189
売掛金	647,372	211,058
1 ▶ 有価証券	115,888	4,119,244
営業投資有価証券	5,595,942	5,828,400
2 ▶ たな卸資産	6,573,711	36,344,528
営業貸付金	11,707,744	19,361,400
繰延税金資産	1,039	823,502
未収入金	157,085	7,545,342
その他	1,327,378	2,151,468
貸倒引当金	△11,884,991	△7,829,785
固定資産	2,537,351	865,843
有形固定資産	259,516	275,997
無形固定資産	680,189	241,157
3 ▶ 投資その他の資産	1,597,644	348,688
資産合計	22,643,306	79,021,192

1 ▶ 有価証券

価格変動リスクの高い有価証券の投資ポジションを解消しました。

2 ▶ たな卸資産、短期借入金

連結の範囲に含まれていた特別目的会社が非連結となり、当該特別目的会社のたな卸資産(販売用不動産)、短期借入金が大幅に減少しました。

3 ▶ 投資その他の資産

ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債の買入消却に際し、本社債を一時的に所有(1,216百万円)しております。

(単位 千円)

科目	当第2四半期末 (2009年3月31日現在)	前期末 (2008年9月30日現在)
(負債の部)		
流動負債	4,469,446	37,399,383
2・4 ▶ 短期借入金	885,125	33,613,647
4 ▶ 一年以内返済予定長期借入金	845,000	1,818,300
債務保証損失引当金	1,162,351	38,292
その他	1,576,969	1,929,142
固定負債	14,960,564	24,195,549
5 ▶ 新株予約権付社債	12,160,000	22,170,000
4 ▶ 長期借入金	2,475,000	1,612,600
その他	325,564	412,949
負債合計	19,430,010	61,594,933
(純資産の部)		
株主資本	2,686,598	16,855,245
資本金	10,764,317	10,764,317
資本剰余金	10,351,900	10,351,900
利益剰余金	△18,429,619	△4,260,972
評価・換算差額等	△56,996	△47,945
その他有価証券評価差額金	96	△7,346
為替換算調整勘定	△57,092	△40,599
新株予約権	24,296	17,659
少数株主持分	559,396	601,301
6 ▶ 純資産合計	3,213,295	17,426,259
負債・純資産合計	22,643,306	79,021,192

4 ▶ 短期借入金、一年以内返済予定長期借入金、長期借入金

連結されている特別目的会社のノンリコース・ローン(非選及型融資)を除く金融機関からの借入金合計は、2,105百万円となります。

5 ▶ 新株予約権付社債

当第2四半期に10,010百万円(額面金額ベース)の買入消却を行っております。

6 ▶ 純資産

2009年4月17日に行った新株予約権付社債の消却による社債償還益28.2億円を含む場合の純資産合計は6,033百万円となります。

四半期連結損益計算書

(単位 千円)

科目	当第2四半期累計	前中間期
	(2008年10月1日から 2009年3月31日まで)	(2007年10月1日から 2008年3月31日まで)
売上高	2,047,287	8,961,842
売上原価	10,682,779	1,659,474
売上総利益又は売上総損失(△)	△8,635,491	7,302,367
販売費及び一般管理費	10,990,484	4,989,378
営業利益又は営業損失(△)	△19,625,976	2,312,989
営業外収益	67,527	103,015
営業外費用	925,822	779,942
経常利益又は経常損失(△)	△20,484,271	1,636,062
特別利益	7,087,318	-
特別損失	102,418	187,728
匿名組合分配前 税金等調整前中間純利益	-	1,448,333
匿名組合損益分配額	-	△64,893
税金等調整前中間純利益又は 四半期純損失(△)	△13,499,371	1,383,439
法人税、住民税及び事業税	5,649	1,990,917
法人税等調整額	824,285	△947,474
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△160,160	755,501
四半期(中間)純損失	14,169,145	415,505

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位 千円)

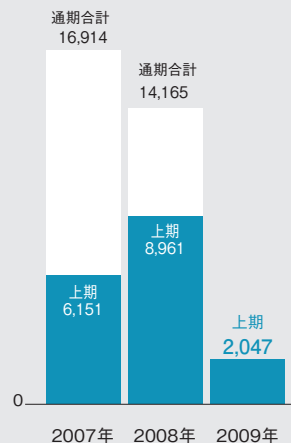
科目	当第2四半期累計	前中間期
	(2008年10月1日から 2009年3月31日まで)	(2007年10月1日から 2008年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,371,410	11,440,666
投資活動によるキャッシュ・フロー	8,213,648	△11,556,340
財務活動によるキャッシュ・フロー	△16,209,555	△2,858,839
現金及び現金同等物に係る換算差額	△10,910	△84,827
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△3,635,406	△3,059,341
現金及び現金同等物の期首残高	9,500,189	15,163,735
新規連結に伴う現金及び現金同等物の 増加額	-	39,510
連結除外に伴う現金及び現金同等物の 減少額	-	△1,145
現金及び現金同等物の四半期末 (中間期末)残高	5,864,782	12,142,758

●連結財務ハイライト

(各年度10月1日～9月30日)

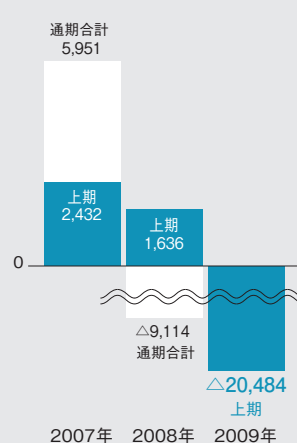
売上高

(単位 百万円)



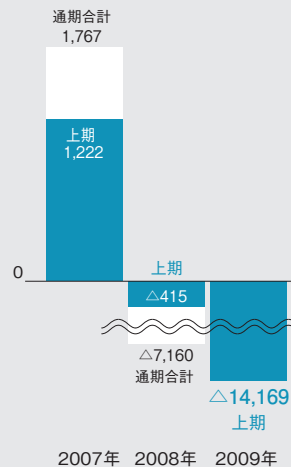
経常利益(損失)

(単位 百万円)



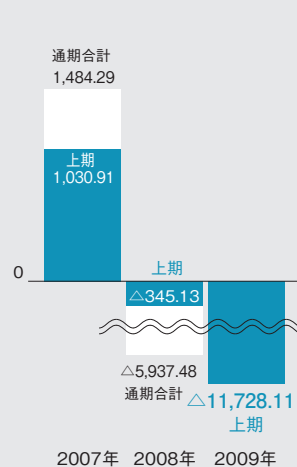
四半期(当期)純利益(損失)

(単位 百万円)



一株当たり四半期(当期)純利益(損失)

(単位 円)



会社概要

(2009年3月31日現在)

フィンテック グローバル株式会社

設立	1994年12月7日		
資本金	107億6,431万7,950円		
従業員数	連結130名、単体73名(臨時従業員、派遣社員を除く)		
役員	取締役会長	ロバート・ハースト	常勤監査役 二宮 幸一
	代表取締役社長	玉井 信光	監査役 大山 亨
	取締役副社長	野瀬 泰伸	監査役 長島 弥吉
	取締役	大橋 光郎	

株主メモ

事業年度	10月1日～翌年9月30日
定時株主総会	12月
基準日	9月30日
中間配当基準日	3月31日
上場証券取引所	東京証券取引所マザーズ市場(証券コード：8789)
公告の方法	電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
公告掲載URL	http://www.fgi.co.jp/japanese/ir/download.html#denshi
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号
事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	0120-288-324(フリーダイヤル) 受付時間 9:00～17:00(土日祝日を除く)

株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について
証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社へお願いいたします。なお、未払配当金のお問い合わせについては、上記の電話お問い合わせ先へお願いいたします。株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)へ預託されていた株主様には、株主名簿管理人である上記のみずほ信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話お問い合わせ先へお願いいたします。

株主様のご住所・お名前等のご住所・お名前等の文字に、ほふりが振替制度で指定していない漢字等が含まれている場合は、その全部または一部をほふりが指定した文字またはカタカナに変換して、株主名簿に記録いたしております。

このため、株主様にご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置き換えられる場合がありますのでご了承ください。株主様のご住所・お名前等として記録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

株式の状況

(2009年3月31日現在)

発行可能株式総数	3,084,000 株
発行済株式の総数	1,208,135 株
株主数	13,438 名

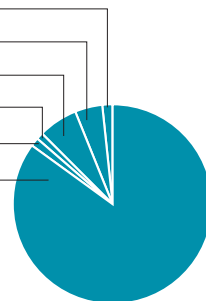
大株主(上位10名)

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
1. 玉井 信光	297,000	24.58
2. 藤井 優子	52,014	4.31
3. ユービーエス エージェンシー シンガポール	39,203	3.24
4. 青島 正章	35,325	2.92
5. 財務大臣	20,001	1.66
6. 鈴木 章久	19,000	1.57
7. 株式会社アイエヌコーポレーション	13,750	1.14
8. 平野 修	13,299	1.10
9. 井上 晴義	12,750	1.06
10. 田村 直丈	12,200	1.01

株式分布状況

●所有者別

政府及び地方公共団体	20,001株 (1.66%)
その他国内法人	52,323株 (4.33%)
外国人	76,513株 (6.33%)
証券会社	14,354株 (1.19%)
金融機関	17,693株 (1.46%)
個人その他	1,027,251株 (85.03%)





ロバート・ハースト 取締役会長

IFC、シティバンク・グループなどでデリバティブ、ストラクチャードファイナンスのプロフェッショナルとして活躍。バンクAIG証券代表を経て、2005年12月当社取締役、2007年12月当社取締役会長就任。



玉井 信光 代表取締役社長 投資銀行本部長

オリックスにて航空機ファイナンスをはじめとするストラクチャードファイナンス手法を用いた金融商品の企画販売業務を担当。その後、保険関連事業の策定・展開、リスクファイナンスや保険をベースとしたプロジェクトファイナンスのアレンジ等を手掛ける。新しいインベストメントバンキング形態を目指し、1994年当社を設立。



野瀬 泰伸 取締役副社長

大和証券、ドイツ銀行、スイスユニオン銀行等においてストラクチャードファイナンスに携わる。リーマン・ブラザーズ証券東京支店においては、日本人責任者として日本企業向け証券化ビジネスの立ち上げ、各種証券化商品の組成部隊を構築。2005年1月同社マネージング・ディレクター兼グローバルストラクチャードファイナンス日本統括責任者に就任。2005年12月当社取締役、2008年4月当社取締役副社長就任。



大橋 光郎 取締役 執行役員 審査部長兼コンプライアンス室長

みずほ信託銀行(旧安田信託銀行)にてニューヨーク支店、海外審査部等を経て、1997年7月同行豪州現地法人社長に就任。2000年4月から同行審査部に転勤、審査部専任部長としてストラクチャードファイナンスの審査を所管。不動産鑑定士。2005年12月当社取締役就任。

●子会社

フィンテック グローバル証券株式会社

設立	2004年6月(2005年10月証券業登録)
資本金	4億6,500万円
事業内容	ファンドの私募の取り扱い

フィンテック グローバル キャピタル合同会社

設立	2006年9月
事業内容	ベンチャーキャピタルファンドに対するアドバイザー業務

株式会社イントラスト

設立	2006年3月
資本金	2億円
事業内容	滞納家賃保証事業

株式会社パブリック・マネジメント・コンサルティング

業務開始日	2008年7月
資本金	1億152万円
事業内容	公会計用ソフトウェアの開発・販売・コンサルティング

Stellar Capital AG

設立	2006年3月
資本金	100億871万円
事業内容	信用補完供与、保証引受

Crane Reinsurance Limited

設立	2006年3月
資本金	15億円
事業内容	再保険引受

株式会社ベルス

業務開始日	2007年12月
資本金	667万円
事業内容	職域福利厚生サービス、不動産売買・賃貸・管理の紹介・斡旋

フィンテック キャピタル リスク ソリューションズ株式会社

設立	2001年4月
資本金	5,000万円
事業内容	信用補完案件の組成、アレンジメント